

MUJI for Public Space in Maebashi

# うすい店展

— 無印良品とDDAA LABが考える、建築プロセスのハッカビリティ —

MUJI for Public Space in Maebashi  
うすい店展

無印良品とDDAA LABが考える、建築プロセスのハッカビリティ

2025年1月25日[土]—3月23日[日]  
会場：アーツ前橋 1階ギャラリー | 入場無料 | <https://artsmaebashi.jp>  
共催：アーツ前橋、株式会社良品計画 | 企画協力：DDAA LAB

アーツ前橋  
MAEBASHI

株式会社  
良品計画

▷▷▲▲

共催：アーツ前橋、株式会社良品計画 / 企画協力：DDAA LAB

「MUJI for Public Space」とは、無印良品と DDAA LAB が、〈公共を享受する視座〉をテーマに取り組みデザインリサーチ・プロジェクトで、2022 年に東京・銀座の公共空間を舞台にしたアイデアをまとめた「MUJI for Public Space 展 一街をもっと楽しむための 100 のアイデア」が ATELIER MUJI GINZA で開催されました。

アーツ前橋は前橋市中心市街地のにぎわい創出を目指して、2023 年から「無印良品」を運営する株式会社良品計画との協働を開始し、同年 11 月に建築家・元木大輔によるデザインリサーチのワークショップ「MUJI for Public Space in Maebashi」を県内の若手デザイナーや学生を対象に実施しました。本展は、今年のワークショップと今年 11 月に前橋中央通り商店街で行われた「うすい店」の試験設置（11/19～24）を経て、これからの前橋のまちづくりに極薄建築「うすい店」を提案する展覧会です。

DDAA LAB は、建築的な思考を軸に、リサーチやプロトタイピングを通して実験的なデザインを行うプラットフォームで、彼らのテーマのひとつに既存の素材を最大限に活用し、最小限の手付きで機能やシステムを拡張したり、違う意味につくり変えたりする“ハック”という手法があります。「うすい店」はシャッター街や工事中の仮囲いなどに着目し、完成というピークにのみ焦点を当てられがちな建築プロセスをハックし、街を面白くするアクティビティを生み出す〈ハッカビリティ= 改変可能性〉を提示します。

今後、大規模な再開発工事ははじまる予定の前橋市中心市街地。本展は低予算かつ短期間で実装できる戦術的まちづくり（=タクティカル・アーバニズム）のひとつとして「うすい店」の社会実験をおこない、このトライアルを通して、市民が主体となり自らの場所を生まれ変わらせるには何が有効で何が課題なのかを、地域の人々とともに考えていきます。

## 株式会社良品計画と前橋のまちづくり

無印良品を運営する株式会社良品計画は、第二創業のテーマの一つとして〈地域への土着化〉を掲げ、日常生活のインフラを担うべく地方への店舗出店を拡大するとともに、それぞれの地域が抱える社会課題の解決にも取り組んでいます。ここ前橋では、2023 年 1 月に前橋市中心市街地のまちなかの魅力向上と賑わいの創出を目指した「まちなかの活性化に関する連携協定」を前橋市と締結。再開発が今後進む全長約 330 メートルの全蓋式アーケード商店街に、「無印良品 前橋中央通り商店街」を 2023 年 2 月にオープンしました。毎日の生活に欠かせない日用品などの商品販売を行い、生活に「役に立つ」店舗と、商店街への出店を検討する事業者が短期間でチャレンジできるスペース「一坪開業」の設置や、「ヒトとつながる、マチをつなげる」をコンセプトに、地域の方々と一緒につくり、運営している期間限定のマーケット「つながる市」の開催など、まちなか活性への寄与を目指して、店舗運営と地域活動の両面で商店街をはじめとして地域とつながり、共に取り組みを進めています。

## 「うすい店」とは？

典型的な再開発や建築のプロセスでは、まず計画があります。次に工事が始まり、工事が終わると竣工（完成のことをこう呼びます）し、人々によって使われるようになります。特に大規模な計画であればあるほど、「作る」と「使う」に隔たりが起りやすく、もちろん様々な検証やデータ収集による裏付けが事前に行われるものの、オープンしてみないとその実証性を保証することはできません。巨大な規模での検証は現実的ではないからです。つまり、蓋を開けてみなければ分からない側面がどうしても発生してしまいます。しかし、本来「作る」と「使う」は循環構造であるべきです。使ったことで得られる知見を、計画にフィードバックすることができれば、案の質の向上に繋がるからです。

生き物の場合、幼少期の成長過程であってもその意味はゼロではなく、成人するまでのプロセスでトライアンドエラーがあります。また、成人して以降の老い方についても、今までの知見や経験を活かした多様な楽しみ方があります。

再開発や建築の場合、その多くは竣工するまでのプロセスが街に対して閉ざされていて、周辺環境との関係性がほとんどゼロの状態で行われます。そして、竣工してから時が経ち、竣工直後の繁栄が失われた時、たとえば商店街がシャッター街化して活動が停止し、不動産価値が下がってしまうということが起こるのです。それぞれのフェーズに街や建物の多様な楽しみ方があるはずなのに、従来のあり方には〈旬の時期〉が発生してしまいます。これは、今までの建築計画では成長と衰退を考慮せず〈旬の時期〉のみにフォーカスを当てていたからでしょう。

工事期間中の仮囲いとシャッター街を敷地に、建物にとっての幼少期と老年期を含む長いタイムラインをデザインの問題として考えようというのが今回展示する「うすい店」のプロジェクトです。

幼少期にあたる「再開発のうすい店」は、大規模な再開発を控える前橋中心市街地の仮囲いに少しだけ奥行きを持たせ、商店の機能を挿入することで工事中も街や商店街に対して開き続ける、というアイデアです。通常の計画では閉ざされてしまう期間にアクティビティを生むだけでなく、再開発へのフィードバックの機会としても機能します。

老年期の「アーケードのうすい店」は、ロードサイド商業への移行と人口減少から少しずつ賑わいを取り戻しつつあるアーケード商店街で、シャッターを降ろしたままになっている店舗のファサードに、極薄の店舗什器を挿入します。昭和30年代に整備された全蓋式アーケードの利点を最大限に活用し、軒先1mほどの奥行きのみで最小限の面積と予算で、ローカロリーに街と関わりを持ち続け、薄く狭いことがむしろ面白くなるような提案をするプロジェクトです。

再開発だけでなく、延々と開発工事を続ける横浜駅や渋谷駅、計画から竣工まで数十年の月

日がかかる都市計画道路など、巨視的な視点で見るとゆっくり動いているけれど、微視的な視点で見ると封鎖や遮断によって街のアクティビティを衰退させしまっている状況が、日本各地で見られます。「うすい店」はそんな従来の紋切り型の開発や都市計画に介入し、街を変えていくデザインの手法であり戦術なのです。

2024年11月／元木大輔

### 元木大輔（もとぎ・だいすけ）

DDAA/DDAA LAB 代表。CEKAI 所属。Mistletoe Community。シェアスペース happa 運営。1981 年埼玉県生まれ。2004 年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業後、スキーマ建築計画勤務。2010 年 DDAA 設立。2019 年、コレクティブ・インパクト・コミュニティーを標榜し、スタートアップの支援を行う Mistletoe と共に、実験的なデザインとリサーチのための組織 DDAA LAB を設立。2021 年第 17 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展参加。2021～2023 年、東京藝術大学非常勤講師。

## 本展の見どころ

### ① 極薄建築「うすい店」から、千代田町再開発を考える



※「うすい店」設置イメージ画像

今後、大規模な再開発工事が始まる前橋市中心市街地。本展はその来たる街の未来に向けて極薄建築「うすい店」を提案する展覧会です。「うすい店」は、工事中は仮囲いで覆われてしまう区画に商店の機能を挿入することで、工事中は閉ざされてしまうはずの場所からアクティビティを生むことを可能にするデザインです。本展を通して、まちなかの再開発、そしてその再開発の改変可能性について市民の皆さんと考えを巡らせます。

### ② 美術館・企業・デザインスタジオによる初の3者間協働



「無印良品 前橋中央通り商店街」による「うすい店」の実験（企画協力：DDAA LAB） 「アーツ前橋 株式会社良品計画 1Day ワークショップ《MUJI for Public Space in Maebashi》

アーツ前橋は開館 10 周年を迎えた 2023 年より、前橋市中心市街地のにぎわい創出を目指して株式会社良品計画との協働を開始し、同年 11 月に県内の若手デザイナーや学生らを対象に、元木大輔氏によるデザインリサーチのワークショップ「MUJI for Public Space in Maebashi」を共同企画しました。本展はその協働体制を更に発展させ、美術館・企業・デザインスタジオの 3 者によって展覧会という形式を使って前橋の街に対するデザイン提案を行う、アーツ前橋初の試みです。

### ③ 建築家・藤本壮介さんを招いたトークセッションの開催



©David Vintiner



©HIROMICHI UCHIDA

本展会期中の2025年2月8日[土]には、千代田町再開発の基本設計を担当する藤本壮介氏を迎えたトークセッション「『千代田町再開発』のハッカビリティ」を開催いたします。前橋の再開発に異なる方法でアプローチする藤本氏と元木氏の視点から、再開発プロセスの改変可能性やそのための異なる手法について議論を展開していただきます。

#### 藤本壮介（ふじもと・そうすけ）

1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・プラン）に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに就任。2024年には「(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託」受注候補者に特定。主な作品に、ブダペストのHouse of Music (2021年)、マルホンまきあーとテラス 石巻市複合文化施設 (2021年)、白井屋ホテル (2020年)、L'Arbre Blanc (2019年)、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン 2013 (2013年)、House NA (2011年)、武蔵野美術大学 美術館・図書館 (2010年)、House N (2008年) 等がある。

## 関連プログラム

#### 元木大輔さんと考える、建築プロセスのハッカビリティ

日時：2025年1月25日 [土] 午後2時～4時

登壇者：元木大輔（本展企画協力／建築家）、宮尾弘子（株式会社良品計画）、橋本薫（前橋まちなかエージェンシー代表理事）、田中隆太（前橋市にぎわい商業課、マチスタント）

会場：アーツ前橋 スタジオ / 料金：無料 / 定員：45名

申込方法：12月24日 [火]以降に当館ホームページよりお申込みください



「千代田町再開発」のハッカビリティ

日時：2025年2月8日[土] 午後2時-4時

登壇者：藤本壮介（建築家）、元木大輔（本展企画協力／建築家）

会場：アーツ前橋 スタジオ / 料金：無料 / 定員：45名

申込方法：12月24日 [火]以降に当館ホームページよりお申込みください

無印良品 前橋中央通り商店街タウンミーティング in アーツ前橋

日時：2025年3月9日[日] 午後2時-4時

登壇者：中村和義/永田貴大/猪子大地/工藤浩樹（株式会社良品計画）、高橋由佳（アーツ前橋学芸員）

会場：アーツ前橋 スタジオ / 料金：無料 / 定員：40名

申込方法：以下 URL よりお申込みください

[https://www.muji.com/jp/ja/event/event\\_detail/?selectEventId=14085](https://www.muji.com/jp/ja/event/event_detail/?selectEventId=14085)

## 開催概要

展覧会名	MUJI for Public Space in Maebashi 「うすい店」展 —無印良品と DDAA LAB が考える、建築プロセスのハッカビリティ—
会期	2025年1月25日 [土] - 3月23日 [日]
会場	アーツ前橋 1階ギャラリー（〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16）
開館時間	午前10時-午後6時（入場は午後5時30分まで）
休館日	水曜日
入場料	無料
共催	アーツ前橋、株式会社良品計画
企画協力	DDAA LAB
協力	前橋中心商店街協同組合、株式会社ヤマト、マチスタント
DDAA LAB 担当	元木大輔、村井陸、安西将也、滝実彩喜、辻そよか
株式会社良品計画担当	宮尾弘子、永田貴大、猪子大地、工藤浩樹
アーツ前橋担当	宮本武典、高橋由佳
グラフィックデザイン	UMEKI DESIGN STUDIO、Company2
什器制作	TANK

**【同時開催】**

展覧会名	アーツ前橋企画展「はじまりの感覚」
会期	2025年1月25日[土] - 3月23日[日]
休館日	水曜日
会場	アーツ前橋 地下ギャラリー
観覧料	一般 600 円 / 学生・65 歳以上・団体（10 名以上）400 円 / 高校生以下無料 ※障害者手帳等をお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料 ※2月8日[土]、3月8日[土]、「多様な学びの日」のため無料

**プレスプレビュー**

開催日時・会場	2025年1月24日[金] アーツ前橋
時間	午後2時-6時（受付は午後1時30分から）
登壇予定者	元木大輔（DDAA LAB 代表）、宮尾弘子（株式会社良品計画）

※「はじまりの感覚」展と同時開催

※参加ご希望の方は、以下 URL もしくは QR コードからお申込みください。

<https://logoform.jp/form/dWZu/835446>





## 広報用図版

広報用画像として本リリースに掲載している画像をご用意しております。  
ご希望の場合は、こちらの URL もしくは QR コードからお申込みください。

<https://logoform.jp/form/dWZu/851362>

※お申込み後に、ダウンロード用の URL と ID・PASS をお送りします。



### 記事掲載についてのお願い

※掲載にあたっては、展覧会名と会期を表記してください。

※画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

※掲載記事や VTR は、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。

※取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。

※画像の使用は本展覧会の広報目的に限り、個人ブログ等への掲載や鑑賞等を目的とする場合には提供できません。

番号	キャプション・クレジット等
【1】	「MUJI for Public Space 展 一街をもっと楽しむための 100 のアイデア」(2022~2023 年 / ATELIER MUJI GINZA)
【2】	「MUJI for Public Space 展 一街をもっと楽しむための 100 のアイデア」(2022~2023 年 / ATELIER MUJI GINZA)
【3】	「MUJI for Public Space 展 一街をもっと楽しむための 100 のアイデア」(2022~2023 年 / ATELIER MUJI GINZA)
【4】	「アーツ前橋 株式会社良品計画 1Day ワークショップ《MUJI for Public Space in Maebashi》(2023 年 / 前橋中心市街地)
【5】	「アーツ前橋 株式会社良品計画 1Day ワークショップ《MUJI for Public Space in Maebashi》(2023 年 / 前橋中心市街地)
【6】	「無印良品 前橋中央通り商店街」による「うすい店」の実験 (企画協力: DDAA LAB)
【7】	Daisuke Motogi / DDAA LAB Exhibition Hackability of the Stool at Kyoto City KYOCERA Museum of Art (2022、京都市京セラ美術館) / Photo: Kenta Hasegawa
【8】	「MUJI for Public Space in Maebashi くすい店」展 一無印良品と DDAA LAB が考える、建築プロセスのハッカビリティー」チラシ

お問い合わせ先 前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 アーツ前橋

【広報】高橋・上田 TEL: 027-230-1144 Email: [press@artsmaebashi.jp](mailto:press@artsmaebashi.jp)

Instagram: [@arts\\_maebashi](https://www.instagram.com/arts_maebashi) X: [@ArtsMaebashi](https://twitter.com/ArtsMaebashi) HP: [artsmaebashi.jp](https://www.artsmaebashi.jp)

広報用画像

【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】

